

# 照明作業における注意事項

## 主劇場

2020. 4版

### ● 仕込に入る前に

1. 仕込作業に入る前に、スタッフ全員での打合せがあります。
2. 作業中はヘルメットを着用して下さい。
3. 劇場の移動器具の保管場所が数ヶ所にわたっているため、カンパニーが使用する器具の所在を、吊り込む以前に劇場側スタッフに確認して下さい。
4. 当劇場の器具類には既存のメーカーの製品に固有の改良を加えたものが、いくつかあります。取り扱いについては、劇場側スタッフに確認の上、使用するようして下さい。
5. 当劇場は、複合ビル内の一部に属しているため、ギャラリーやバルコニーの呼称がビル全体の階層で名づけられています。舞台床面及び一階客席が、ビル全体では4階に当たります。各々の呼称については、後述の各ブースごとの注意項目を参照して下さい。
6. 当劇場には基本仕込の設定がありませんので、ブリッジ、バトン等の器具は一定ではありません。
7. 持ち込み器具がある場合、当劇場には、T型コネクタの付いたケーブル類が一切ありませんので注意して下さい。
8. 当劇場は複合ビル内の一部に属しているため、防災管理もビル内一括で行われています。それにより万が一、照明器具等の不良などによって、漏電がおきると、ビル内全体に警報が流れるシステムになっています。持ち込み器具等のチェックを事前に十分して下さい。

### ● ブリッジの移動・取り外しについて

9. 仕込前にブリッジの移動や取り外し（当劇場独特のシステム）がある場合、劇場側スタッフの指示に従って手順通り安全に作業を行って下さい。
10. ブリッジの移動や取り外しを行う場合、スノコ上でケーブルリール電源の移動作業を当劇場の照明係と共に行っていただきますが、スノコ上では、落下する恐れのある物を一切身につけないで作業するよう注意してください。

## ブリッジ・動力バトン等への吊り込み

11. ブリッジ3列、及びプロセニウムブリッジの回路容量は、基本的には2kw（一部は6kw）である事に注意して下さい。各ブリッジ吊り込み**最大重量は600kg**です。  
B28（FUH）の**最大重量は120kg**です。
12. 当劇場は安全作業に万全を期すため、吊り込み時、器具本体の落下防止ワイヤーはもちろん、バンドアー、元玉、先玉、マシン類等、本体と切り離しが可能で落下の危険があるもの、及び色枠にも**落下防止ワイヤーの装着**をお願いしています。又、ワイヤーを掛ける位置も、各器具所定の位置に掛けて下さい。
13. 持ち込み色枠の紙製の色枠は、防炎加工してあるものに限り、使用を認めます。但し落下防止ワイヤーの装着は、紙シート、金シート共に必要です。
14. 当劇場は色枠として、器具からの落下防止ワイヤーを受けるワイヤーリング付きで、**不燃性素材**を用いた**ハイパーフィルターホルダー**を使用しています。可能な限り、当方のものに入れ替えて下さい。
15. 動力バトン、ブリッジ、点吊装置については当劇場の機構係が安全確認の上、昇降の操作を行います。昇降操作中は、その直下を通過しないようにして下さい。
16. バトン等吊り込みのために、降ろされたケーブルの**バトン端**は、ロープでしっかりと固定し、ビニールテープ、ガムテープなどは使用しないで下さい。（バトン内の要所要所の止めにはテープ類を使って結構です。）
17. 各ブリッジ、バトン等の吊り込みが終了しても、当劇場の担当照明係の安全チェックを受けてから各ブリッジ、バトンを上げるようにして下さい。

## ● 手引きバトンへの吊り込み

18. 手引きバトンをライトバトンとして使用する場合、バトンの径が60mm（動力バトンは48.6mm）ですので、当劇場の専用ハンガー（100ヶ）に付け替えて、吊り込んで下さい。
19. 手引きバトンのカウンターウエイトの重量調整は必ず行ってください。又調整のため、カウンターウエイトを積んだり、下ろしたりする時は、綱元の仕切りに、当劇場所定の器具を使用して作業するようにして下さい。又ストッパーは7Fギャラリー（カウンターウエイトの積み下ろしを行う所）と4F舞台面の2ヶ所共に、掛けて下さい。手引きバトンの荷重は300kgです。
20. 当劇場のカウンターウエイトは、一枚5kg、10kgの2種類があります。
21. 立ち降ろされたケーブル等の処理は、動力バトンに準じて下さい。
22. 手引きバトンの昇降の担当者は、舞台上の各セクションに、必ず大きな声を掛けてから、動作を始めて下さい。

## ● **ブリッジへの乗込み**

23. 作業のためのブリッジへの乗込みは、ブリッジの高さにより、上手ギャラリーの任意の各階からできますが、乗込みは、当劇場のスタッフの指導を受けてから行うようにして下さい。
24. ブリッジ（プロセニウムブリッジを含む）の上での作業（フォーカス時等）は、**安全ベルト**を着用して行って下さい。安全ベルトは上手舞台袖の綱元に掛けてあります。又、ブリッジに**乗込んだまま**でのブリッジ本体の**昇降は、禁止**です  
\*2021年1月以降は**フルハーネス**着用となるのでご注意ください。

## ● **サイドライトバトン・ギャラリーへの吊り込み**

25. サイドライトバトンへの吊り込みがある場合、同時に東西幕を吊り込んで使用すると、器具と幕の接触の危険性があるので、劇場側スタッフに相談の上、双方の吊方を工夫して下さい。
26. ギャラリー吊り込みある場合、上手側5，6，7，8Fギャラリーに対して、下手側は、7，8Fギャラリーしかない事に注意して下さい。下手側をサイドライトバトンに吊り込み、上下の高さを調整する等の工夫をして下さい。
27. 各ギャラリー（奥 GALL も含む）での作業では原則として**墜落制止用器具**を着用してください。

## ● **前まわりへの仕込み**

28. フロントへの出入りは3F（奈落面）、4F（舞台面）、6F（三階客席）からそれぞれ可能です。各階の移動は、ブース内の階段で往来できます。作業用の蛍光灯は、**調光室でのみ ON、OFF**ができます。直、下手6F（三階客席）扉は公演時、施錠いたしますので注意して下さい。  
また、フロントでの作業も**墜落制止用器具**を着用して下さい。
29. シーリング（第1・第2）へは、4F 舞台面のエレベーター又は、上手前後の非常階段で7F まで上がり、上手ギャラリーを通過して、シーリング入り口の扉を開けて行けます。第1CLから第2CLへは渡り橋が通じています。
30. シーリングは定型の回路取りはしてありませんので、カンパニー側で自由に取って、回路の申告をして下さい。容量計算に注意して下さい。（ソースフォー19度は575wです。ズームは750wです。）
31. フォロースポット室へは、シーリング入り口の扉は入らず、上手7F ギャラリーからそのまま非常通路を最奥まで進んでください。
32. フォロースポット室には、遮音のためのガラス窓の内側に、防火シャッターの枠があります。床面に黄色のビニールテープのラインが引いてあります。ピンスポット本体をラインから窓側に出さないようにして、使用して下さい。  
また、使用後は**転倒防止ワイヤー**の装着をお願いします。

33. バルコニーは、5 BAL が二階客席、6 BAL が三階客席に当たります。バルコニーの仕込作業は必ず**墜落制止用器具**を着用して行って下さい。
34. 当劇場のフロント及びバルコニーは、客席の頭上に、直接灯体が出ています。観客の安全を図るため灯体の各パーツ毎の**落下防止ワイヤーの装着**は、特に念を入れて確認して下さい。
35. バルコニーの吊り込みパイプには、固定の割ハンガーが、取り付けてあります。観客の安全を図るため、通常のハンガーによる、逆吊りは、禁止します。

## ● **プロセニウムブリッジ**

36. プロセニウムブリッジへは、シーリング入り口の扉前階段をもう一段上がると、プロセニウムブリッジ入り口の扉があります。  
プロセニウムブリッジ内は、非常に狭くなっていますので、器具の持ち運び等の作業には、充分注意して下さい。**墜落制止用器具**を着用してください。
37. プロセニウムブリッジ内の点吊り装置を利用してトラス（角トラスと平トラスがあります。）を吊り込む場合、トラス本体の吊り込みは、劇場側機構係の指示に従って下さい。  
回路は、プロセニウムブリッジ内から専用のマルチケーブルをトラスの上下両端の外側から降ろして下さい。

## ● **電飾・灯入れ**

38. 電飾持ち込みの場合、配線図（消防署の許可を得たもの）の提出を前もってしておいて下さい。
39. 灯入れ関係の仕込みがある場合、定格容量のブレーカーを必ず入れて下さい。（劇場側のブレーカー付きケーブルを利用されても結構です。）
40. 裸電球使用にあたり本番時 UP/DOWN などがあり前後に接触して破裂の恐れがある場合は飛散防止措置をお願いします。

## ● **舞台面・客席等**

41. 舞台床面に直に、或いは、リノリウム、パンチカーペットの類のものに、直に照明（LH、LHQ 等は可）器具を置くことは、禁止します。断熱性の素材のものを中間に入れて、置いて下さい。
42. ケーブル等の養生のために、ガムテープや両面テープ等、粘着性の強いものの舞台床面への、直接の使用は禁止します。

43. バトン吊り、舞台置きを問わず、袖幕等の幕類からは最低、10cm程、灯体を離して仕込むよう、注意して下さい。

本番中、場面転換や、出演者の出入り等で、袖幕付近に置いてある灯体が動いて、接触してしまう場合があるので、幕類近くに仕込みがある作品の舞台上には必ず照明係又は、それに準じる係員（舞台監督や演出部が、兼ねても良い）を、配置してください。  
客席内に固定の照明器具（スタンド等を含む）を仕込む場合、非常時の通路確保のため、客席椅子（肘掛け）から1メートル以上離して設置するようにして下さい。  
場合によっては、客席椅子の取り外しを必要としたり、一部座席が使用出来なくなったりしますので、カンパニー側の制作との調整もしていただきます。
44. 客席内のケーブル配線は、観客が開演前、休憩中、終演後の他に、開演中の客電暗転中にも移動する可能性がありますので、引っ掛けたり、躓いたりしないように、しっかりと養生して下さい。
45. 舞台装置や小道具で水・土・砂・紙吹雪や、それらに類する粉末・液体等の使用があると、場合によっては、終演後に照明器具等のメンテナンスが必要となる場合がありますので、仕込打合せの段階で十分検討してください。
46. 劇場機材のハンガー取り付け用ダボをはずす事は禁止します。  
PAR-16 用金具などに取り付ける場合は、持込機材を使用して下さい。
47. 劇場機材のレンズ取り外しは基本的には禁止します。  
機材によってはEクリップなどで固定されているので一度外すと復帰を業者に依頼する事になるものも有ります。
48. 舞台上や客席等での作業に高所作業車や脚立を使用する場合、原則として転倒防止のための補助要員を配置してください。また、天板の上には乗らないで下さい。
49. 高所作業台（車）については取り扱い方法を劇場の担当者から聞いて下さい。  
上昇したままの移動、アウトリガーを外しての使用は禁止となっています。